

Curious Eyes of a Witch

明治天皇百年祭一心のあかり

明治天皇をお偲びする夜間参拝

廣瀬 浩保
明治神宮 神職



仁木 洋子
空間演出プロデューサー



明治天皇をお偲びする 夜間参拝

仁木 このたびは、明治天皇様崩御百年にあたる「明治天皇百年祭」の前夜祭7月28日、29日の夜間特別参拝の空間演出を担当させていただきました、ありがとうございます。

廣瀬 夜間特別参拝は、お偲びの気持ちをこめてご参拝いただくと同時に、東日本大震災における鎮魂と復興への思いもこめ、日本人の心の再建を期すものでした。

平成22年の「明治神宮鎮座90年」や20年の「社殿復興50年」などは、お祝いでしたが、今回は、それとは意味合いが違いましたので、どうしたらよいだろうかと迷っておりましたところ、仁木さんとの出会いがあり、ご相談を申し上げま

した。ライトアップを舞台にして、明治天皇を偲ぶ映画や震災で被災された東北地方の方々の郷土芸能の奉納などをきちんと生かす演出をお示しくださり、ご参拝された方々もひじょうに共感していただいたように思いました。おかげさまで、今までにない夜間参拝になったのではないかと、あらためてお礼を申し上げたいと存じます。

仁木 ありがたいお言葉をいただき、光栄でございます。

今回のむずかしさは、それぞれ意味の深い映画や郷土芸能、歴史などをしっかりとご覧いただき、その上で、全体の統一感を演出すること。そして何よりも、厳かななかでご参拝いただく環境づくりでした。多くの要素があるなかで、足

し算をするのではなく、それぞれを際立たせるための引き算のデザインと申しましょうか、深く心にしみご参拝としたいと思いました。ご本殿周りを染めたのは、今回が初めてのことだと伺いましたが…。

廣瀬 ご本殿周りと廻廊を自然なあかりで照らしたことはありましたが、あの淡紫色の色調はありませんでした。

仁木 伝統のなかで、ご心配やご反対もあったのではないかと思います。いつもご参拝されているという方々から、「高貴な色に染まっている社殿が、心にしみました…」というお声かけをいただき、嬉しく思いました。

廣瀬 色といえば、ご提案いただいた「光の箱」…あそこまでカラ



フルなものをご神木の下にお供えたことは、なかったですね(笑)。きれいな方がいいじゃないか…という足し算的なものではなく、こどもから大人まで多くの皆様が被災地の復興を祈っておつくりくださった「光の箱」だったからこそ、ご参拝の皆様が感動されたのでしょう。

仁木 「光の箱」のワークショップは、ご希望も多く、7日間開催し、3才のお子さんからご両親、おじいさんやおばあさん、職場のご友人など実に800人を超える皆さんが、650個の「光の箱」をつくっていただきました。当初は、さすがにご神木の下での展示は無理では…と思いました。

廣瀬 昔から「別火」という思想があり、祭事を行なうために、人々は新しく火を鑽り出しました。さまざまな思いが火に籠りやすいからこそ、神事には瑞々しい火が必要なのかもしれません。電気の照明も「火」と考えれば、そこに当然、人の思いが籠る。復興の祈りを籠めてつくられた「光の箱」のあか

りは、今回ひととき美しく百年祭の境内を照らしてくださいました。まったく仁木さんのお陰です。

心をつなぐあかり

仁木 デザインを実現するには、多くの技術の方々に協力していただいて完成させていくものですが、今回は、いつも以上に、心をひとつにして上げることができたように思います。安全祈願での太鼓の音やご本殿の凛とした空気感に皆が感動し、現場は酷暑で厳しい作業でしたが、完成した時には、誰もが、晴れ晴れとした顔つきでした。

廣瀬 本当に多くの皆さんのお力とお気持ちにより完成しました。ワークショップでありがたかったのは、多くのデザイナーの皆さんにボランティアとしてご参加いただき、仁木さんがすべての日にわたってご指導くださったことでした。エピソードもたくさんございましたね。仁木 ご参加の皆さんが口々に「こんなに夢中になるとは思わなかった…」と、喜んでくださいました。



お子さんに震災支援の説明をしながら参加されたご両親は、「話をする機会ができてよかった」と。お孫さんの付添いでみえたおじいさんに、「眺めているだけでなく、おつくりになりませんか」と、お薦めしたら、翌週は、気に入ったからと、お仲間のおじいさんたちをお連れになって再びご参加されました。また、発達障害がありご参加を心配されたお母さんには、「退屈された時は神宮の杜で遊ばれた後、次の回に戻ってきて参加されてもいいですよ」と、ゆっくりのペースをお伝えしたのですが、飽きることなく「光の箱」を完成されました。廣瀬 「光の箱」は、私もつくりましたが、本当に思い出に残りました。仁木 夜間参拝では、皆さんで記念撮影をされる和やかな光景が多く見られました。また、小さい男の子がご参拝のやり方をお姉さんやお母さんに教えてもらいながら、ちゃんと祈っている姿は、とてもかわいくて微笑ましいものでした。「明治天皇百年祭」のご縁で、人



と人のつながりが深まったことは素晴らしいことで、百年祭のひとりに加わることができ感慨深いものがございます。

廣瀬 独特の夜の雰囲気の中でお参りをした記憶は、きっと心に残り、これからのご参拝につながるでしょうね。

本番の明け方近く、3時過ぎに竹あかりの点灯を私もお手伝いして、8人ほどでろうそくに火を点けましたね。自分でも点けたので気になりますから、少し離れて眺めたのですが、私が点けたところよりも熊本からわざわざお越しいただいた皆様が点けてくださった竹あかりの方が、とても美しく感じられました。やはりたくさんのお思いがともこもっていたのでしょう。あかりの色合いや形以前にそのあかりを灯す人の心のあり方が大事なのだと強く感じました。

明治神宮の杜の素晴らしさ

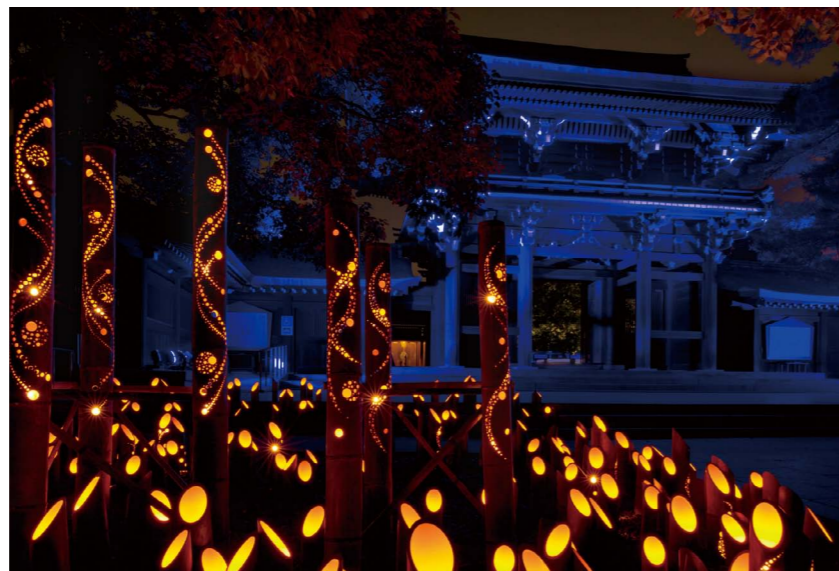
仁木 竹あかりだけでも、千個以上ありましたので、お手伝いいただき助かりました。廣瀬様に点灯

していただいた竹あかりも美しくあたたかてございましたよ。

あの本番の日の日の出を迎える30分ほど前でしょうか。鳥たちのオーケストラのような朝を告げる声を聞くことができたのは、感動でした。

廣瀬 スタッフの方々と一緒に一刻一刻と明ける時を待っていると、まず鳥が…、次にひぐらしが鳴きはじめ、「みんな朝を喜んでいるのね」と仁木さんがおっしゃいましたね。一瞬のことでしたが、夜間参拝の当日を迎えた朝、杜全体に、一段と生命がみなぎっているようでした。

仁木 夜間テストで伺った時に、



こちらを眺めている狸さんの家族と何度も出会いました(笑)。

廣瀬 明治神宮は、もともと荒地地で、全国からの10万本の献木によって造られた人工林です。また、のべ11万人の青年団の勤労奉仕を得てきた杜でもあります。「この木はどこから来たのだろうか」「どの県の青年団がこの参道をつくったのだろうか」という視点で見た時、杜の景観が変わって見えてくるはずですよ。

仁木 明治神宮に伺っていて、外と気温が違うことに驚きます。高地ではないのに、気温が低いのは、杜のおかげでしょうね。都心は夜も気温が下がりませんが、現場中に、ホッとするような爽やかな涼風が吹いてきて、自然のありがたさを実感いたしました。

廣瀬 都会に広がるこの杜は、はるか後世を見越した植栽計画の元に造られた「永遠の杜」です。

仁木 ちょっと裏の方に入りますと、90年程前に人工的につくられたとは思えない、深い杜がございますね。

廣瀬 杜の歴史は、人間の歴史よりはるかに長いわけで、そのわず

かな時間を私たちは、見守らせていただいています。今回の夜間参拝の祭事も明治神宮の歴史のなかの一コマです。人知を超えた大きな力を畏れ敬いつつ謙虚な気持で神宮に勤めていくということが大切なんだろうと思います。

仁木 深夜になり、神職の皆様もとてもお疲れでしょうに、ずっと背筋を伸ばしたお姿で、すすっと滑るように足早に立ち働いていらっしゃるお姿を拝見して、見習わなければと思いました。私たちの仕事は徹夜も多く、時には気持がぶつかったり、言葉が荒くなることもございますが、今回は、そういうことがございませんでした。一人ひとり何かを感じ、光のセッティングも大切に、現場を務めてくれました。

廣瀬 今回手づくりの「光の箱」が奉納展示されたことは、ひとつの変わり目だなあと感じました。神宮が、皆が心をひとつに絆を深め、祈る場所として、より開かれた気がします。

仁木 初詣の参拝数は、明治神宮が日本一ですが、6月の花菖蒲もみごとですし、パワースポットで有名な清正の井も薄水が張っているかのように見えて驚きます。ほかに流鏝馬や横綱奉納土俵入りにも伺ったことがあります。先日は、神職様と巫女様に導かれたご婚礼の行列を、外国人の方々が感声を上げながら、カメラに納めていらっしゃいました。ご本殿や参道だけでなく、深い緑の杜の光や空気もとても素晴らしいので、年間を通じて、さまざまな時に皆さん

がおみえになるといいですね。

均衡と調和の文化

仁木 最後に、日本文化の良さについてお聞かせください。

廣瀬 クリントン米国务長官が来宮された時に日本の文化の特徴について、明治神宮の中島宮司が「均衡と調和(バランスとハーモニー)」と申し上げましたところ、とても共感され、米国にとっても、大切なキーワードであるとおっしゃったそうです。つまり、一神教的な考えではなく、八百万の神様がいらっしゃるって成り立っている、という日本の寛容性、おおらかさというものが、これから特に大切ではないでしょうか。

仁木 世界のどこかで常に戦争やトラブルが起こっていますが、草花や虫やすべてに命が宿っていて、一つひとつを大切に考える考えがあれば、なくなるのには思いません。

廣瀬 絶対的な悪はないという考えがあるわけです。^{すまののおみこと}素戔嗚尊も天界で暴れて、下界へ降りてきたら、^{やまたのおろち}八岐大蛇を退治してヒーローになるわけです。

^{くさなぎのつるぎ}草薙剣も実は、八岐大蛇の尾から出てきたのです。つまり、悪の化身の中から、神聖な三種の神器のひとつが出てきたのです。それはひとつのエネルギーであって、正は邪に変わる可能性をもち、醜は美に変わる可能性をはらんでいる。それは、一時として同じ状態ではなく、変わっていくのです。

仁木 ちょっと方向を変えてあげると、乱暴な子もよい子になり、全部が悪い子なんていない。あたたか



く見てあげるといいことでしょうか。

廣瀬 そうです。自分の心も同じで、どうしても受け入れられない憎しみや怒りもありますね。それは自分の中にひとつのクラスがあるようなもの。乱暴な子もいれば、嘘つきの子もいる。もちろん優等生も。その一人ひとりを温かいまなざしで見上げてあげることによって変わっていく。そうした寛容性が、これからはもっと厳しい環境になっ

ていく。そうした寛容性が、これからはもっと厳しい環境になっ

ていく。そうした寛容性が、これからはもっと厳しい環境になっ

ていく。そうした寛容性が、これからはもっと厳しい環境になっ

廣瀬 浩保 Hiroyasu Hirose

明治神宮 神職

埼玉県生まれ。早稲田大学教育学部、國學院大学神道学専攻卒業。広告制作プロダクション勤務を経て、平成7年、明治神宮に奉職。明治神宮広報誌制作、展覧会企画などを担当。現在は総合企画部百年総合企画課に所属。平成24年7月の明治天皇百年祭を担当し、この後の平成32年明治神宮鎮座百年に向けた事業に関する業務も担当している。

仁木 洋子 Yoko Luna Niki

空間演出プロデューサー

熊本市生まれ。多摩美術大学卒業。(社)日本空間デザイン協会副会長。世界のモーターショーブースデザインやさまざまな空間の演出、プロデュースを行なう。地球環境・資源保護に配慮したその仕事は、欧州でも評価され国内外で積極的に活躍。東京・丸の内・有楽町で毎年12月に開催のチャリティ「ライティング・オブ・ジェ」展を主催。2012年7月「明治天皇百年祭」の夜間特別参拝の空間演出デザインを行なう。